**新　宿　区**

**障害者生活実態調査報告書**

**概　要　版**

令和５年３月

新　宿　区

**新　宿　区**

**障害者生活実態調査報告書**

**概　要　版**

目　次

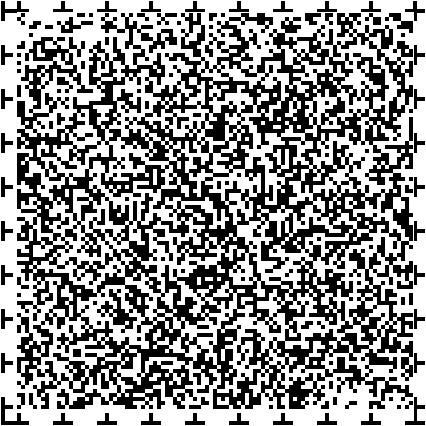
[**調査の目的と方法 1**](#_Toc129012298)

[**Ⅰ　在宅の方を対象とした調査 3**](#_Toc129012299)

[**Ⅱ　施設に入所している方を対象とした調査 15**](#_Toc129012300)

[**Ⅲ　児童（18歳未満）の保護者の方を対象とした調査 21**](#_Toc129012301)

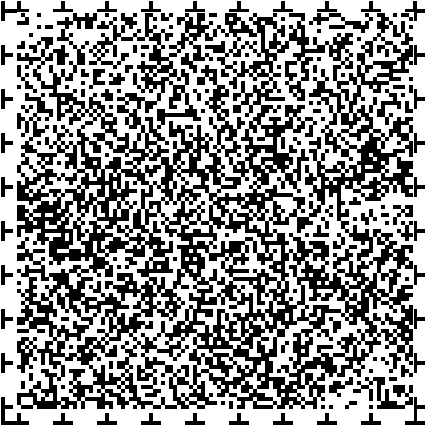
[**Ⅳ　サービス事業者を対象とした調査 33**](#_Toc129012302)

****

## 調査の目的と方法

（１）調査の目的

令和５年度に策定する「第３期新宿区障害児福祉計画及び第７期新宿区障害福祉計画（令和６年度から令和８年度まで）」（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス、相談支援、地域生活支援事業の提供体制の確保に関する計画）の策定及び障害者計画の見直しを行うために実施しました。

（２）調査の対象と調査方法

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **調査の種類** | **調査の対象** | **調査方法** |
| Ⅰ　在宅の方を対象とした調査 | 新宿区内在住の18歳以上で、身体障害者手帳または愛の手帳をお持ちの方、自立支援医療（精神通院医療）の給付を受けている方（精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を含む）、手帳をお持ちではなく障害福祉サービスなどを利用している方、難病医療の給付を受けている方 | 配布は郵送方式、回答収集は郵送方式またはWeb回答方式 |
| Ⅱ　施設に入所している方を対象とした調査 | 新宿区内外の施設に入所している方で身体障害者手帳、愛の手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方 |
| Ⅲ　児童（18歳未満）の保護者の方を対象とした調査 | 新宿区内在住の18歳未満で、身体障害者手帳または愛の手帳をお持ちの方、自立支援医療（精神通院医療）の給付を受けている方（精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を含む）、手帳をお持ちではなく障害福祉サービスなどを利用している方、難病医療の給付を受けている方 |
| Ⅳ　サービス事業者を対象とした調査 | 新宿区内にある障害福祉サービス等を提供している事業者 |

（３）調査期間

令和４年11月16日（水）～12月9日（金）の期間に実施しました。

（４）配付・回収状況

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **調査票の種類** | **配付数** | **回収数** | **うち**  **WEB回答** | **有効回収数に占めるWEB回答の割合** | **白票**  **無効票** | **有効**  **回収数** | **有効**  **回収率** |
| Ⅰ　在宅の方を対象とした調査 | 4,962 | 2,413 | 354 | 14.8％ | 16 | 2,397 | 48.3％ |
| Ⅱ　施設に入所している方を対象とした調査 | 213 | 130 | 11 | 8.5％ | 0 | 130 | 61.0％ |
| Ⅲ　児童（18歳未満）の保護者の方を対象とした調査 | 1,107 | 627 | 199 | 32.2％ | 9 | 618 | 55.8％ |
| Ⅳ　サービス事業者を対象とした調査 | 201 | 156 | 57 | 37.7％ | 5 | 151 | 75.1％ |
| 全体 | 6,483 | 3,326 | 621 | 18.8％ | 30 | 3,296 | 50.8％ |

※　配付後、宛先不明等の理由で返送された場合は、配付数から除いてあります。

◆　調査結果の見方について

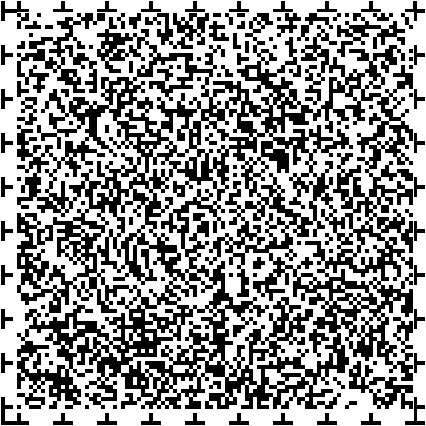
①　集計した数値（％）は小数点第２位を四捨五入し、小数点第１位まで表示しています。このため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合、選択肢の数値（％）を全て合計しても、100％にならない場合があります。

②　回答者数を分母として割合（％）を計算しているため、複数回答の場合には、各選択肢の割合を合計すると100％を越えます。

③　回答結果を見やすくするため、調査票の設問文、グラフ及び文章中の選択肢などを一部簡略化している場合があります。

④　障害別の集計では、２つ以上の障害がある方は、それぞれの障害の集計結果に含まれています。このため、障害別の集計を合計したのべ人数は、全体の人数よりも多くなります。

⑤　前回調査比較は、令和元年度に実施した調査と比較をしています。



## 

## **Ⅰ　在宅の方を対象とした調査**

（１）年齢

**◆「70代以上」が33.1％**

・全体では、「70代以上」が33.1％と最も多く、次いで「50代」が20.2％、60代が15.1％などとなっています。

・障害別では、身体障害、難病・特定疾患では「70代以上」、知的障害では「20代以下」、精神障害では「50代」が多くなっています。



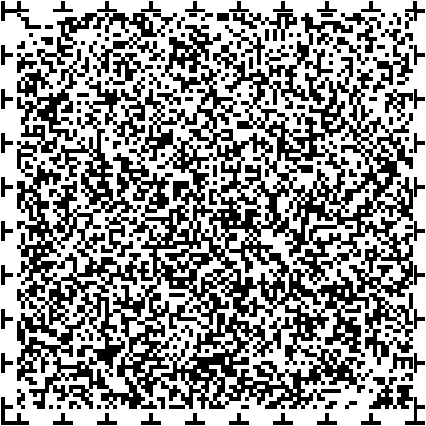
（２）手帳や医療券の種類 [複数回答]

**◆「身体障害者手帳」が56.0％**

・全体では、「身体障害者手帳」が56.0％と最も多く、次いで「自立支援医療（精神通院医療）の給付」が18.6％、「愛の手帳」が15.4％などとなっています。

・主たる障害以外との重複について、身体障害では6.3％が難病医療の給付を受けています。知的障害では15.9％、精神障害では10.0％、高次脳機能障害では64.7％、難病・特定疾患では34.3％がそれぞれ身体障害者手帳を所持しています。



****

（３）医療的ケアの必要性

**◆『何らかの医療的ケアを必要としている』が16.2％**

・全体では、回答者全体から「特に必要としていない」と回答した方と無回答の方を差し引いた『何らかの医療的ケアを必要としている』方は16.2％となっています。

・障害別では、全体と比較して、身体障害と難病・特定疾患で『何らかの医療的ケアを必要としている』方が多くなっています。

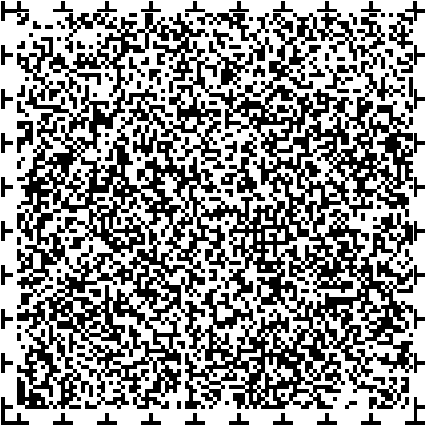


（４）主な介助者

**◆「配偶者・パートナー」が24.4％、次いで「母親」が21.9％**

・全体では、「配偶者・パートナー」が24.4％と最も多く、次いで「母親」が21.9％、「ホームヘルパー」が12.2％などとなっています。

・障害別では、身体障害、難病・特定疾患では「配偶者・パートナー」、知的障害、精神障害では「母親」が多くなっています。



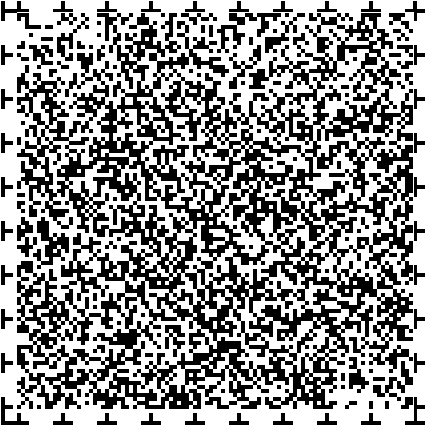
（５）主な介助者の年齢

**◆「75歳以上」が24.8％、次いで「65～74歳」が23.9％**

・全体では、「75歳以上」が24.8％と最も多く、次いで「65～74歳」が23.9％、「50～59歳」が22.4％などとなっています。

・障害別では、身体障害では「75歳以上」、知的障害と難病・特定疾患では「65～74歳」、精神障害では「50～59歳」が多くなっています。





（６）介助や支援をできなくなった場合 [複数回答]

**◆「ホームヘルパー（居宅介護等）を利用する」が19.8％**

・全体では、「ホームヘルパー（居宅介護等）を利用する」が19.8％と最も多く、次いで「施設に入所する」が17.5％、「一緒に住んでいる家族に頼む」が16.5％などとなっています。「まだわからない」は24.0％です。

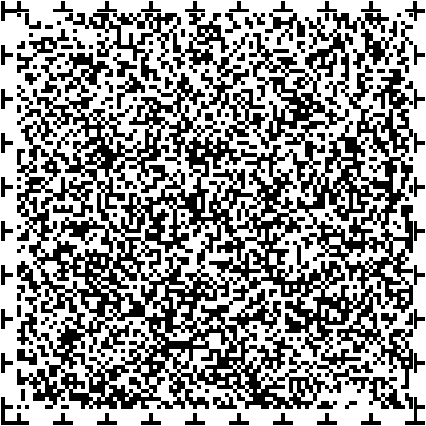
・障害別では、身体障害と難病・特定疾患では「ホームヘルパー（居宅介護等）を利用する」、知的障害では「グループホーム、福祉ホームに入居する」、精神障害では「まだわからない」が多くなっています。

（７）日常生活で困っていること [複数回答]

**◆「将来に不安を感じている」が41.9％**

・全体では、「将来に不安を感じている」が41.9％と最も多く、次いで「健康状態に不安がある」「災害時の避難に不安がある」が32.1％、「緊急時の対応に不安がある」が30.5％などとなっています。

・障害別では、「将来に不安を感じている」以外では、身体障害では「災害時の避難に不安がある」、知的障害では「役所などの手続きが難しい」、精神障害では「経済的に不安がある」、難病・特定疾患では「健康状態に不安がある」が多くなっています。



（８）気軽に相談するために必要なこと [複数回答]

**◆「どんな相談にも対応できる総合窓口」が34.6％**

・「どんな相談にも対応できる総合窓口」が34.6％と最も多く、次いで「電話やFAXでの相談」が26.7％、「プライバシーの遵守」が24.3％などとなっています。

（９）過去１年間に利用した通信機器の機能・サービス [複数回答]

**◆「電子メールの送受信」が46.1％**

・全体では、「電子メールの送受信」が46.1％と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が44.4％、「SNSの利用（Facebook、Twitter、LINE、Instagramなど）」が36.2％などとなっています。

・障害別では、身体障害と難病・特定疾患は「電子メールの送受信」、知的障害と精神障害は「ホームページやブログ、動画の閲覧」が多くなっています。

（10）日中の過ごし方

**◆「正社員・正職員として働いている（テレワークを含む）」が14.2％**

・全体では、「特になにもしていない」が22.2％と最も多く、次いで「正社員・正職員として働いている（テレワークを含む）」が14.2％、「パート・アルバイト・派遣社員などで働いている」が11.5％などとなっています。

・障害別では、身体障害と精神障害は「特に何もしていない」、知的障害は「就労継続支援事業所（A型・B型）、福祉作業所などで働いている」、難病・特定疾患は「正社員・正職員として働いている（テレワークを含む）」が多くなっています。

※「正社員・正職員として働いている（テレワークを含む）」は、前回「正社員・正職員として働いている」

※「パート・アルバイト・派遣社員などで働いている」は、前回「パート・アルバイトなどで働いている」

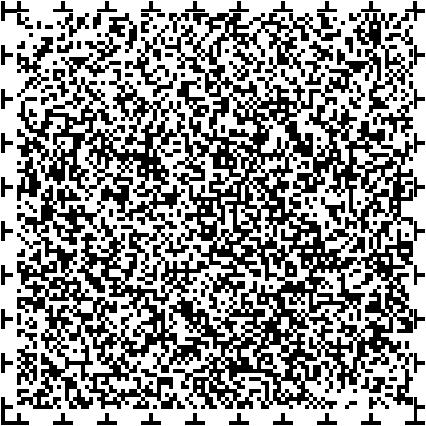
※「職業訓練中（就労移行支援事業所を含む）」は、前回「職業訓練中」

（11）仕事上の困りごと [複数回答]

**◆「収入が少ない」が34.9％、次いで「体力的につらい」が20.4％**

・「収入が少ない」が34.9％と最も多く、次いで「体力的につらい」が20.4％、「精神的につらい」が14.6％などとなっています。「特にない」は27.8％です。

※「仕事を覚えるのがむずかしい」は、前回「仕事を覚えるのが遅い、覚えられなくて叱られる」

（12）就労のために必要な支援等 [複数回答]

**◆「自分に合った仕事を見つける支援」が23.4％**

・全体では、「自分に合った仕事を見つける支援」が23.4％と最も多く、次いで「職場の障害理解の促進」が20.8％、「就労に向けての相談支援」が20.6％などとなっています。「特にない」は14.5％です。

・障害別では、難病・特定疾患では「職場の障害理解の促進」が多くなっています。

※前回の設問文は「障害者が一般就労するためにはどのようなことが必要だと思いますか」

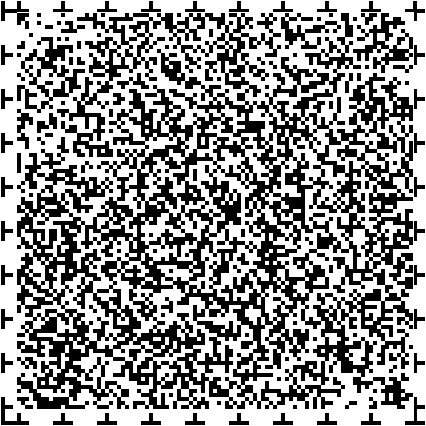
※前回「テレワーク（による在宅勤務）の定着」の選択肢はなし

（13）外出に関して困っていること [複数回答]

**◆「建物の段差や階段があると移動が困難」が19.8％**

・全体では、「建物の段差や階段があると移動が困難」が19.8％と最も多く、次いで「疲れたときの休憩場所がない」が19.7％、「歩道の段差や傾斜があると移動が困難」が18.8％などとなっています。「特にない」は31.0％です。

・障害別では、身体障害では「建物の段差や階段があると移動が困難」、知的障害では「外出するのに支援が必要である」が多くなっています。



（14）過去１年間の趣味や学習活動、スポーツなどの活動 [複数回答]

**◆「スポーツ・軽度な身体活動」が31.6％と最も多い**

・全体では、「スポーツ・軽度な身体活動（ハイキング、ウォーキング、体操等を含む）」が31.6％と最も多く、次いで「コンサートや絵画・演劇鑑賞などの文化的活動」が28.1％、「趣味のサークル活動などの学習活動」が10.7％などとなっています。

・障害別では、身体障害、知的障害、精神障害は「スポーツ・軽度な身体活動」、難病・特定疾患は「コンサートや絵画・演劇鑑賞などの文化的活動」が多くなっています。

（15）福祉サービスの利用状況、利用意向

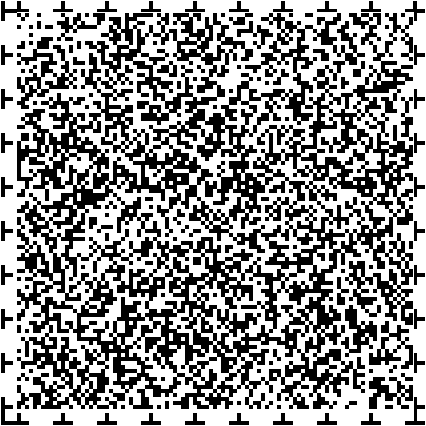
・「現在利用している」と「2～3年以内に利用したい」を合わせた『サービスの需要』は、「タクシー利用券」が29.8%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が18.5%、「自立支援医療」が17.5%などとなっています。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 福祉サービス等 | 現在利用  している | 2～3年以内に  利用したい | サービスの  需要 |
| 1 | タクシー利用券 | 20.7％ | 9.1％ | 29.8％ |
| 2 | 居宅介護（ホームヘルプ） | 11.2％ | 7.3％ | 18.5％ |
| 3 | 自立支援医療 | 13.6％ | 3.9％ | 17.5％ |
| 4 | 補装具費の支給等 | 10.0％ | 5.9％ | 15.9％ |
| 5 | 相談支援事業 | 7.0％ | 7.6％ | 14.6％ |
| 6 | 日常生活用具給付事業 | 7.8％ | 6.5％ | 14.3％ |
| 7 | 短期入所（ショートステイ） | 5.7％ | 8.0％ | 13.7％ |
| 8 | 移動支援事業 | 7.1％ | 5.0％ | 12.1％ |
| 9 | 共同生活援助（グループホーム） | 4.8％ | 5.8％ | 10.6％ |
| 10 | 生活介護 | 5.8％ | 4.3％ | 10.1％ |

（16）サービス利用に関して困っていること [複数回答]

**◆「サービスに関する情報が少ない」が22.7％、次いで「区役所での手続きが大変」が19.1％**

・「サービスに関する情報が少ない」が22.7％と最も多く、次いで「区役所での手続きが大変」が19.1％、「利用者負担（自己負担）が大きい」が8.3％などとなっています。「特にない」は36.5％です。



（17）災害が発生したときに困ること [複数回答]

**◆「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が41.6％**

・全体では、「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が41.6％と最も多く、次いで「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が31.9％、「一人では避難できない」が30.0％などとなっています。

・障害別では、知的障害では「一人では避難できない」が最も多く、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」も多くなっています。身体障害、精神障害、難病・特定疾患では「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が多くなっています。

（18）新型コロナウイルス感染症の影響 [複数回答]

**◆「人との交流や外出の機会が減った」が57.4％**

・全体では、「人との交流や外出の機会が減った」が57.4％と最も多く、次いで「運動不足により体力が落ちた」が35.4％、「精神的なストレスが増した」が30.8％などとなっています。「特にない」は15.6％です。

・障害別では、精神障害では「精神的なストレスが増した」が比較的多くなっています。



（19）新型コロナウイルス感染症に感染して困ったこと [自由記入]

**◆多く寄せられた意見等は****「食料調達や薬の確保が困難」「外出制限、自宅待機で心身ともにストレス」「福祉サービスの利用が困難」など**

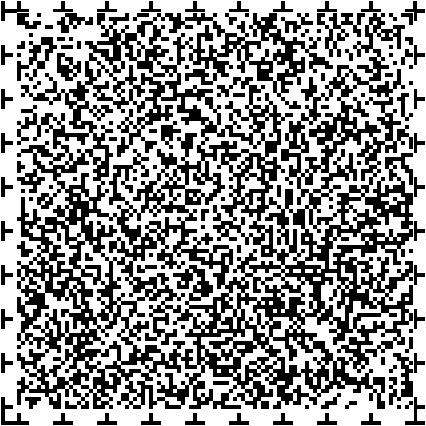
・「食料調達や薬の確保が困難」「外出制限、自宅待機で心身ともにストレス」「福祉サービスの利用が困難」「医療機関の受診が困難」「家事や介助が困難」「仕事に支障が出た」などの回答が多くあげられています。

（20）差別と感じる取扱いを受けた経験 [複数回答]

**◆「職場で」が4.3％、次いで「公共交通、公共施設などで」が3.7％**

・全体では、「職場で」が4.3％と最も多く、次いで「公共交通、公共施設などで」が3.7％、「病院・診療所などで」が2.8％などとなっています。「特にない」は62.6％です。

・障害別では、身体障害と難病・特定疾患では「公共交通、公共施設などで」、知的障害と精神障害では「職場で」が多くなっています。



（21）障害者差別の解消のために力を入れるべきこと [複数回答]

**◆「障害者の一般就労の促進」が25.7％**

・全体では、「障害者の一般就労の促進」が25.7％と最も多く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報の充実」が22.9％、「障害者差別解消に向けた取り組みに関わる情報の提供・発信」が22.4％などとなっています。

・障害別では、知的障害で「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報の充実」が多くなっています。

（22）成年後見制度の利用意向

**◆「今後利用したい」が8.9％に対し、「利用は考えていない」は38.4％**

・全体では、「利用は考えていない」が38.4％と最も多く、次いで「わからない」が35.2％、「今後利用したい」が8.9％、「現在、利用している」が1.9％となっています。

・障害別では、知的障害では「現在、利用している」「今後利用したい」が多くなっています。

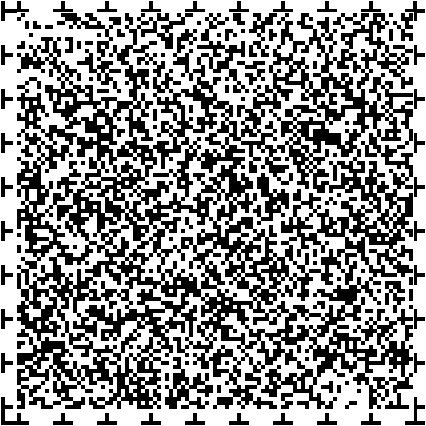


（23）今後の生活の希望

**◆「必要に応じてサービスを利用しながら地域で在宅生活を継続する」が48.1％**

・全体では、「必要に応じてサービスを利用しながら地域で在宅生活を継続する」が48.1％と最も多く、次いで「グループホーム、福祉ホームで生活する」が6.7％、「高齢者の入所施設に入所する」が4.9％などとなっています。「わからない」は21.9％です。

・障害別では、知的障害で「グループホーム、福祉ホームで生活する」が多くなっています。

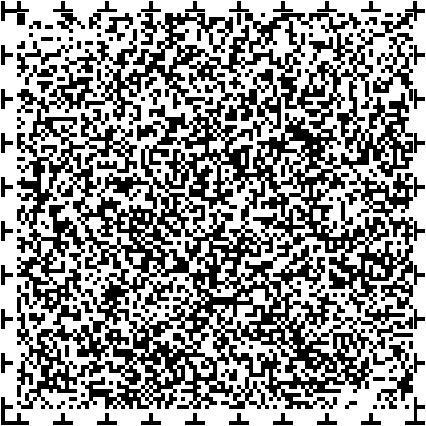


（24）地域で安心して暮らすために重要な施策 [複数回答]

**◆「経済的支援の充実」が20.7％、次いで「相談支援体制の充実」が19.3％**

・全体では、「経済的支援の充実」が20.7％と最も多く、次いで「相談支援体制の充実」が19.3％、「医療に関するサービスの充実」が17.6％などとなっています。

・障害別では、身体障害と難病・特定疾患では「医療に関するサービスの充実」、知的障害では「親や親族が高齢になったり、亡くなった時に本人の権利を守る仕組みづくり」、精神障害では「経済的支援の充実」が多くなっています。



## **Ⅱ　施設に入所している方を対象とした調査**

（１）年齢

**◆「50代」が28.5％、次いで「60代」が22.3％**

・全体では、「50代」が28.5％と最も多く、次いで「60代」が22.3％、「40代」が20.8％などとなっています。

・障害別では、身体障害では「60代」、知的障害では「50代」が多くなっています。



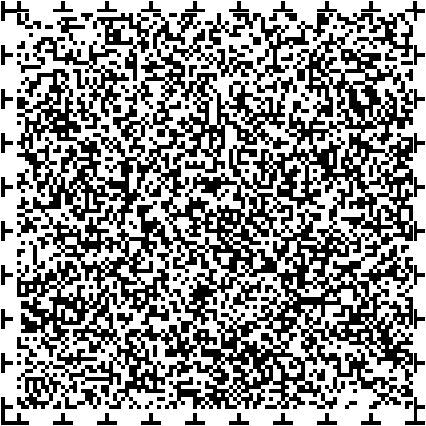
（２）手帳の種類 [複数回答]

**◆「愛の手帳」が67.7％、次いで「身体障害者手帳」が42.3％**

・全体では、「愛の手帳」が67.7％で最も多く、次いで「身体障害者手帳」が42.3％、「精神障害者保健福祉手帳」が2.3％、「これらの手帳は持っていない」が2.3％となっています。

・身体障害の方のうち、43.6％が愛の手帳を所持しており、知的障害のある方のうち、27.3％が身体障害者手帳を所持しています。



****

（３）施設のある地域

**◆「関東甲信越（東京都を除く）」が31.5％**

・全体では、「関東甲信越（東京都を除く）」が31.5％で最も多く、次いで「東京都（23区内を除く）」が20.8％、「新宿区内」が19.2％などとなっています。

・障害別では、身体障害では「23区内」が比較的多くなっています。



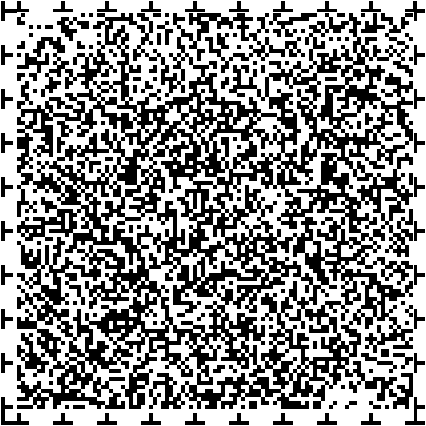
（４）入所期間

**◆「20年以上」が33.8％、次いで「5年以上～10年未満」が26.9％**

・全体では、「20年以上」が33.8％で最も多く、次いで「5年以上～10年未満」が26.9％、「10年以上～20年未満」が16.9％などとなっています。

・障害別では、知的障害で「20年以上」が多くなっています。





（５）施設に入所した理由 [複数回答]

**◆「家族による介助が難しくなったため」が55.4％**

・「家族による介助が難しくなったため」が55.4％で最も多く、次いで「常時介助が必要なため」が34.6％、「生活が保障され安心感があるため」が21.5％などとなっています。

（６）施設生活で困っていること [複数回答]

**◆「身の回りのことが自分では十分にできない」が47.7％**

・全体では、「身の回りのことが自分では十分にできない」が47.7％で最も多く、次いで「外出の機会が少ない」が36.9％、「家族とあまり会えない」が33.1％などとなっています。

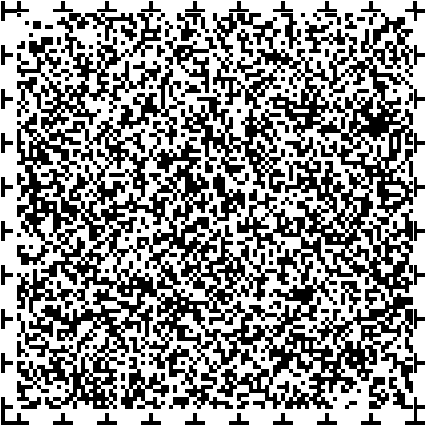
・障害別では、身体障害で「身の回りのことが自分では十分にできない」が多くなっています。知的障害では「身の回りのことが自分では十分にできない」に次いで「家族とあまり会えない」が多くなっています。

（７）施設への要望 [複数回答]

**◆「外出機会の増加」が43.8％、次いで「日中活動の充実」が25.4％**

・全体では、「外出機会の増加」が43.8％で最も多く、次いで「日中活動の充実」が25.4％、「余暇活動の充実」が25.4％などとなっています。「特にない」は30.0％です。

・障害別では、身体障害で「外出機会の増加」が多く、「介護・看護の質の向上」「健康への配慮」なども多くなっています。



（８）医療的ケアの必要性

**◆『何らかの医療的ケアを必要としている』が33.8％**

・全体では、回答者全体から「特に必要としていない」と回答した方と無回答の方を差し引いた『何らかの医療的ケアを必要としている』方は33.8％となっています。

・障害別では、身体障害で『何らかの医療的ケアを必要としている』方が多くなっています。



（９）成年後見制度の利用意向

**◆「現在、利用している」が20.8％、「今後利用したい」が13.1％**

・全体では、「現在、利用している」が20.8％、「今後利用したい」が13.1％、「利用は考えていない」が20.8％、「わからない」は42.3％となっています。

・障害別では、「わからない」以外では、身体障害では「利用は考えていない」が、知的障害では「現在、利用している」が多くなっています。

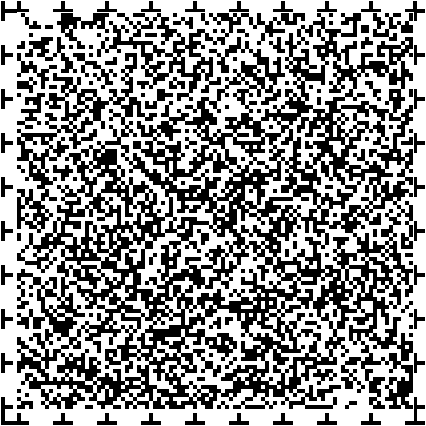


（10）新型コロナウイルス感染症の影響 [複数回答]

**◆「人との交流や外出の機会が減った」が66.9％**

・全体では、「人との交流や外出の機会が減った」が66.9％で最も多く、次いで「家族の面会が制限された」が59.2％、「精神的なストレスが増した」が29.2％などとなっています。

・障害別では、「人との交流や外出の機会が減った」「家族の面会が制限された」以外では、身体障害では「精神的なストレスが増した」、知的障害では「感染した際、施設内で療養を行った」が多くなっています。



（11）今後の生活の希望

**◆「現在の施設で生活したい」が63.8％**

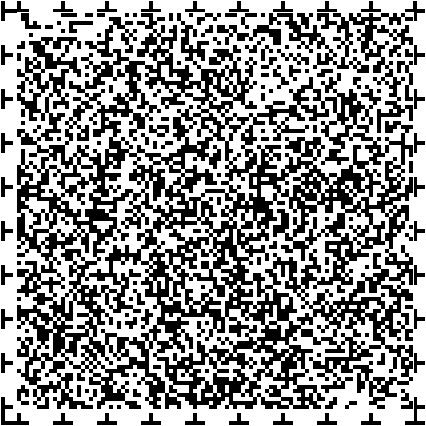
・「現在の施設で生活したい」が63.8％で最も多く、次いで「別の施設で暮らしたい」が3.8％、「施設を退所して、必要に応じてサービスを利用しながら新宿区内で生活したい」「施設を退所して、新宿区内のグループホームで生活したい」が2.3％となっています。「わからない」は23.8％です。

（12）地域で安心して暮らすために重要な施策 [複数回答]

**◆「入所施設の整備・充実」が30.8％**

・全体では、「入所施設の整備・充実」が30.8％で最も多く、次いで「親や親族が高齢になったり、亡くなった時に本人の権利を守る仕組みづくり」が26.2％、「医療に関するサービスの充実」が18.5％などとなっています

・障害別では、身体障害では「入所施設の整備・充実」、知的障害では「親や親族が高齢になったり、亡くなった時に本人の権利を守る仕組みづくり」が多くなっています。



## **Ⅲ　児童（18歳未満）の保護者の方を対象とした調査**

（１）年齢

**◆「３～５歳」が31.4％、次いで「６～８歳」が21.0％、「９～11歳」が16.3％**

・全体では、「３～５歳」が31.4％で最も多く、次いで「６～８歳」が21.0％、「９～11歳」が16.3％などとなっています。

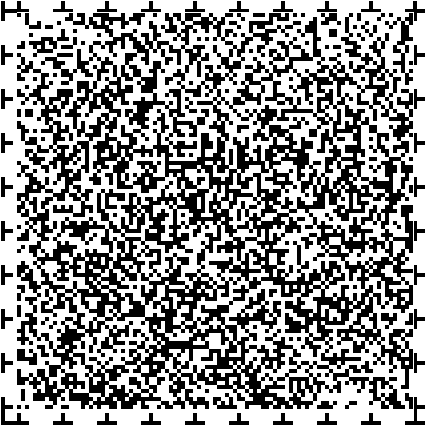
・障害別では、精神障害で「15～17歳」、手帳・診断なしで「３～５歳」が多くなっています。

（２）手帳や医療券の種類 [複数回答]

**◆「これらの手帳等は持ってないし、診断も受けていない」が35.6％**

・全体では、「これらの手帳等は持ってないし、診断も受けていない」が35.6％で最も多く、次いで「愛の手帳」が32.8％、「発達障害」が26.4％、「身体障害者手帳」が13.4％などとなっています。

・身体障害のある方のうち、42.2％が愛の手帳を所持しています。また、医療的ケア児のうち、60.3％が身体障害者手帳、38.2％が愛の手帳を所持しています。

****

（３）障害等に気づいたきっかけ

**◆「家族や周りの人が気づいた」が29.1％**

・全体では、「家族や周りの人が気づいた」が29.1％で最も多く、次いで「生まれてまもなく知らされた」が14.2％、「保育園、子ども園、幼稚園の先生が気づいた」が12.9％などとなっています。

・障害別では、身体障害と医療的ケア児で「生まれてまもなく知らされた」が多くなっています。

（４）医療的ケアの必要性

**◆『何らかの医療的ケアを必要としている』が11.0％**

・全体では、回答者全体から「特に必要としていない」と回答した方と無回答の方を差し引いた『何らかの医療的ケアを必要としている』方は11.0％となっています。

・障害別では、身体障害、難病・特定疾患で『何らかの医療的ケアを必要としている』方が多くなっています。



（５）介助や支援についての悩み [複数回答]

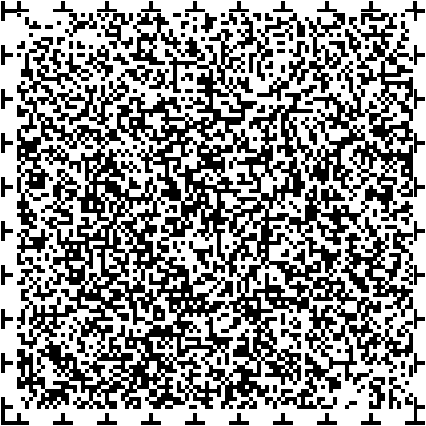
**◆「精神的な負担が大きい」が45.4％**

・全体では、「精神的な負担が大きい」が45.4％で最も多く、次いで「子どもの特性による育てにくさを感じる」が45.1％、「何かあった時に介助を頼める人がいない」が32.8％などとなっています。

・障害別では、身体障害と医療的ケア児で「何かあった時に介助を頼める人がいない」、発達障害と手帳・診断なしで「子どもの特性による育てにくさを感じる」が多くなっています。

（６）きょうだい児に関する悩み [複数回答]

**◆「きょうだい児に日頃から我慢させていると感じる」が74.0％**

・全体では、「きょうだい児に日頃から我慢させていると感じる」が74.0％で最も多く、次いで「きょうだい児と過ごす時間が十分につくれない」が60.6％、「きょうだい児の相談に十分乗ってあげられない」が38.5％などとなっています。

・障害別では、医療的ケア児で「きょうだい児と過ごす時間が十分につくれない」が多くなっています。



（７）日常生活で困っていること（お子さんが困っていること） [複数回答]

**◆「将来に不安を感じる」が46.6％**

・全体では、「将来に不安を感じる」が46.6％で最も多く、次いで「障害のため、身の回りのことが十分できない」が25.7％、「緊急時の対応に不安がある」が25.1％などとなっています。「特にない」は20.1％です。

・障害別では、身体障害と医療的ケア児では「障害のため、身の回りのことが十分できない」が多くなっています。

（８）気軽に相談するために必要なこと [複数回答]

**◆「専門性の高い相談」が44.3％**

・全体では、「専門性の高い相談」が44.3％で最も多く、次いで「スマートフォンによるアプリやSNSでの相談」が39.0％、「プライバシーの遵守」が26.4％などとなっています。

・障害別では、「専門性の高い相談」を除くと、精神障害と、手帳・診断なしで「スマートフォンによるアプリやSNSでの相談」が多くなっています。

（９）通園・通学先

**◆「小中学校等に在学中」が46.3％**

・全体では、「小中学校等に在学中」が46.3％で最も多く、次いで「小学校入学前」が41.4％、「高等学校等に在学中」が11.7％などとなっています。

・障害別では、手帳・診断なしでは「小学校入学前」、精神障害では「高等学校等に在学中」が多くなっています。



【小学校入学前】[複数回答]

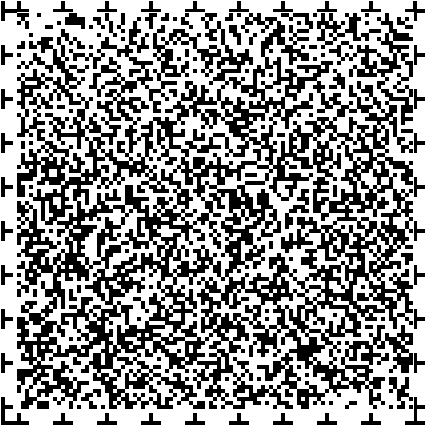
・「保育園」が37.9％で最も多く、次いで「幼稚園」が26.6％、「子ども総合センター以外の児童発達支援などの療育機関」が23.4％などとなっています。

【小中学校等に在学中】[複数回答]

・全体では、「小学校の通常の学級」が26.6％で最も多く、次いで「小学校の特別支援学級」が21.0％、「小学校の通常のまなびの教室（特別支援教室）」が17.5％などとなっています。

・障害別では、身体障害と医療的ケア児では「特別支援学校の小学部」、知的障害では「小学校の特別支援学級」が多くなっています。

【高等学校等に在学中】

・「特別支援学校の高等部」が51.4％で最も多く、次いで「高等学校（定時制・通信制を含む）」が45.8％、「その他の学校」が1.4％となっています。

（10）通園生活等で困っていること [複数回答]

**◆「本人の成長が心配」が53.1％、次いで「子どもの将来に不安がある」が48.8％**

・全体では、「本人の成長が心配」が53.1％で最も多く、次いで「子どもの将来に不安がある」が48.8％、「周囲の子どもとの関係が心配」が47.7％などとなっています。

・障害別では、精神障害と手帳・診断なしで「周囲の子どもとの関係が心配」が多くなっています。

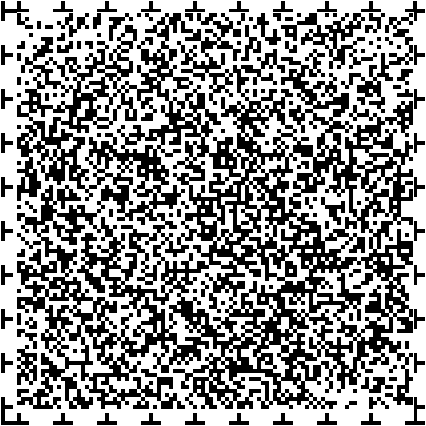
※「いじめについて心配」は前回選択肢なし

（11）通学生活等で困っていること [複数回答]

**◆「子どもの将来に不安がある」が64.0％、次いで「本人の成長が心配」が45.9％**

・全体では、「子どもの将来に不安がある」が64.0％で最も多く、次いで「本人の成長が心配」が45.9％、「今後の進路について迷っている」が43.6％などとなっています。

・障害別では、手帳・診断なしで「周囲の子どもとの関係が心配」が多くなっています。



（12）高等学校（高等部）卒業後の進路（お子さんの希望）[複数回答]

**◆「大学や短期大学へ通う」が43.1％**

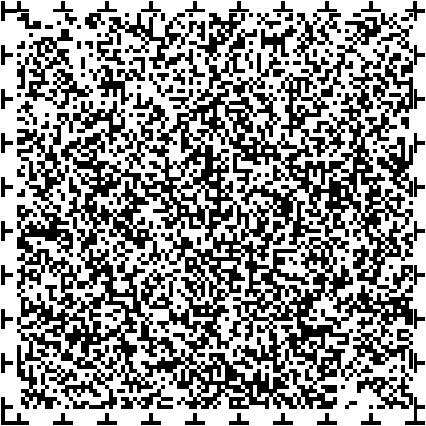
・全体では、「大学や短期大学へ通う」が43.1 ％で最も多く、次いで「企業等へ就職する（パート、アルバイト等を含む一般就労）」が23.6％、「専門学校や専修学校へ通う」が19.4％などとなっています。

・障害別では、知的障害で「企業等へ就職する（パート、アルバイト等を含む一般就労）」が多くなっています。

※「自立訓練（生活訓練・機能訓練）事業所へ通う（障害者生活支援センターなど）」は、前回「自立訓練（生活訓練・機能訓練）事業所へ通う（視覚障害者生活支援センター、カレッジ早稲田など）」

（13）外出に関して困っていること [複数回答]

**◆「外出するのに支援が必要である」が22.5％**

・全体では、「外出するのに支援が必要である」が22.5％で最も多く、次いで「自動車・自転車に危険を感じる」が19. 4％、「駅構内の移動や乗り換えが困難」が11.5％などとなっています。「特にない」は42.7％です。

・障害別では、身体障害、知的障害、医療的ケア児で「外出するのに支援が必要である」が多くなっています。

（14）過去１年間の趣味や学習、スポーツなどの活動 [複数回答]

**◆「スポーツ・軽度な身体活動」が58.1％**

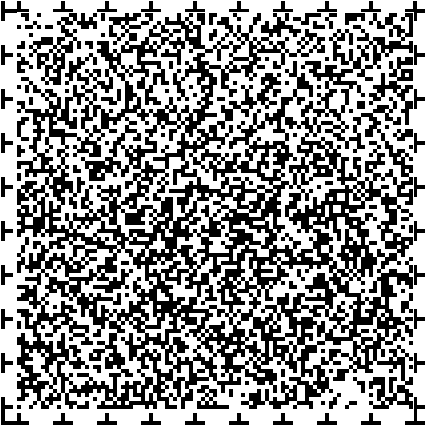
・全体では、「スポーツ・軽度な身体活動（ハイキング、ウォーキング、体操等を含む）」が58.1％で最も多く、次いで「コンサートや絵画・演劇鑑賞などの文化的活動」が36.7％、「趣味のサークル活動などの学習活動」が13.4％などとなっています。



（15）福祉サービスの利用状況、利用意向

・「現在利用している」と「2～3年以内に利用したい」を合わせた『サービスの需要』は、「放課後等デイサービス」が50.0%、「児童発達支援」が41.7%、「移動支援事業」が21.2%などとなっています。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 福祉サービス等 | 現在利用  している | 2～3年以内に  利用したい | サービスの  需要 |
| 1 | 放課後等デイサービス | 30.6％ | 19.4％ | 50.0％ |
| 2 | 児童発達支援 | 38.0％ | 3.7％ | 41.7％ |
| 3 | 移動支援事業 | 11.8％ | 9.4％ | 21.2％ |
| 4 | 日中一時支援事業（障害児等タイムケア） | 3.9％ | 14.2％ | 18.1％ |
| 5 | 短期入所（ショートステイ） | 2.6％ | 11.5％ | 14.1％ |
| 6 | 相談支援事業 | 3.1％ | 9.5％ | 12.6％ |
| 7 | 自立支援医療 | 4.7％ | 7.4％ | 12.1％ |
| 8 | タクシー利用券 | 9.4％ | 1.6％ | 11.0％ |
| 9 | 補装具費の支給等 | 8.9％ | 1.5％ | 10.4％ |
| 10 | 日中一時支援事業（日中ショート） | 1.6％ | 8.1％ | 9.7％ |



（16）サービス利用に関して困っていること [複数回答]

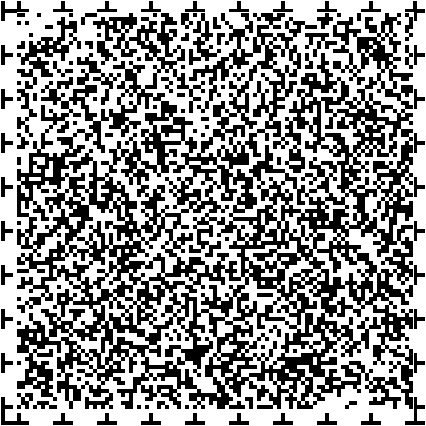
**◆「サービスに関する情報が少ない」が39.3％**

・全体では、「サービスに関する情報が少ない」が39.3％で最も多く、次いで「区役所での手続きが大変」が22.7％、「利用できる回数や日数が少ない」が21.2％などとなっています。「特にない」は29.1％です。

・障害別では、医療的ケア児で「事業者との利用日等の調整が大変」が多くなっています。

（17）災害が発生したときに困ること [複数回答]

**◆「一人では避難できない」が40.5％**

・全体では、「一人では避難できない」が40.5％で最も多く、次いで「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が35.0％、「避難所で必要な支援が受けられるか不安」が30.9％などとなっています。「特にない」は23.0％です。

・障害別では、精神障害で「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」が多くなっています。また、医療的ケア児では「一人では避難できない」に次いで「薬や医療的ケアを確保できるかどうか不安」が多くなっています。

（18）新型コロナウイルス感染症の影響 [複数回答]

**◆「人との交流や外出の機会が減った」が63.6％**

・「人との交流や外出の機会が減った」が63.6％で最も多く、次いで「精神的なストレスが増した」が32.7％、「運動不足により体力が落ちた」が29.4％などとなっています。

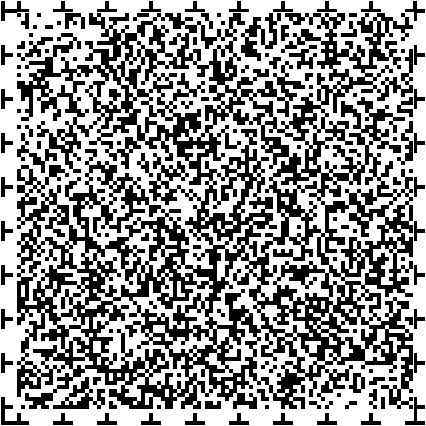
（19）新型コロナウイルス感染症に感染して困ったこと [自由記入]

**◆多く寄せられた意見等は****「外出制限、自宅待機で心身ともにストレス」「家庭内隔離が困難」「家事や介助が困難」など**

・「外出制限、自宅待機で心身ともにストレス」「家庭内隔離が困難」「家事や介助が困難」「食料調達、日用品の確保が困難」「福祉サービスの利用が困難」「医療機関の受診が困難」「入院関連」「仕事に支障が出た」などの回答が多くあげられています。

（20）差別と感じる取扱いを受けた経験 [複数回答]

**◆「学校、教育の場面で」が7.9％**

・「学校、教育の場面で」が7.9％で最も多く、次いで「公共交通、公共施設などで」「保育園、子ども園、幼稚園などで」が6.0％、「近隣、地域で」が5.3％などとなっています。「特にない」は64.7％です。

※「保育園、子ども園、幼稚園などで」は前回選択肢なし

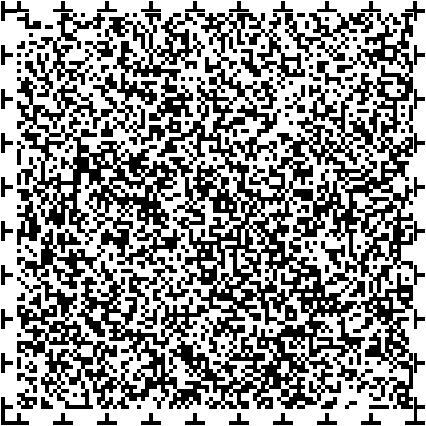
（21）障害者差別の解消のために力を入れるべきこと [複数回答]

**◆「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が48.2％**

・「地域や学校等でともに学び、ともに暮らすこと」が48.2％で最も多く、次いで「学校や生涯学習での障害に関する教育や情報」が40.5％、「地域や学校等で交流の機会を増やすこと」が35.9％などとなっています。

（22）将来の生活の希望

**◆「必要に応じてサービスを利用しながら地域で在宅生活を継続する」が34.3％**

・全体では、「必要に応じてサービスを利用しながら地域で在宅生活を継続する」が34.3％で最も多く、次いで「グループホーム、福祉ホームで生活する」が6.1％、「障害者の入所施設に入所する」が2.8％となっています。「わからない」は44.3％です。

・障害別では、身体障害と知的障害で「必要に応じてサービスを利用しながら地域で在宅生活を継続する」が多く、知的障害では「グループホーム、福祉ホームで生活する」も多くなっています。

（23）地域で安心して暮らすために重要な施策 [複数回答]

**◆「教育・療育の充実」が36.9％、次いで「雇用・就労支援の充実」が29.8％**

・全体では、「教育・療育の充実」が36.9％で最も多く、次いで「雇用・就労支援の充実」が29.8％、「親が高齢になったり、亡くなった時に本人の権利を守る仕組みづくり」が29.6％などとなっています。

・障害別では、身体障害と知的障害で「親が高齢になったり、亡くなった時に本人の権利を守る仕組みづくり」、精神障害で「雇用・就労支援の充実」、医療的ケア児で「医療的ケアの必要な障害児に対する支援の充実」が多くなっています。



## **Ⅳ　サービス事業者を対象とした調査**

（１）経営主体

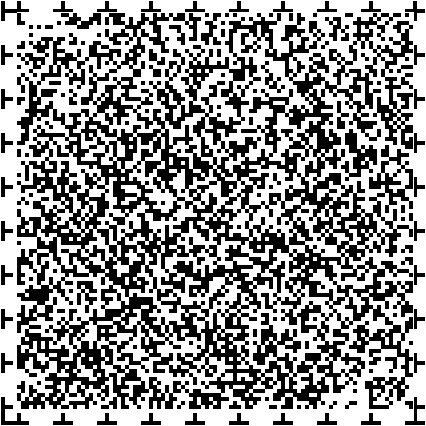
**◆「株式会社・有限会社」が52.3％、次いで「社会福祉法人」が17.9％**

・「株式会社・有限会社」が52.3％で最も多く、次いで「社会福祉法人」が17.9％、「特定非営利活動法人（NPO法人）」が13.2％などとなっています。



（２）提供しているサービス [複数回答]

**◆「居宅介護」が34.4％、次いで「重度訪問介護」が25.8％**

・「居宅介護」が34.4％で最も多く、次いで「重度訪問介護」が25.8％、「移動支援事業」が21.2％などとなっています。****

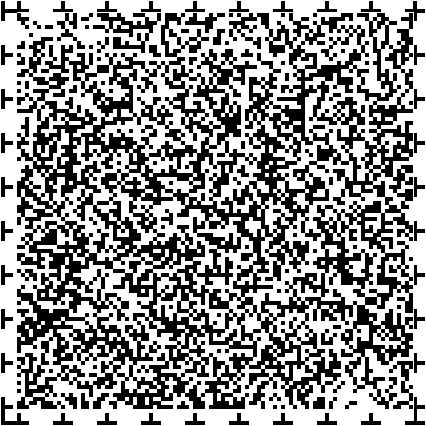


（３）事業収支

**◆「黒字だった」が26.5％、次いで「ほぼ収支が均衡した」が20.5％**

・「黒字だった」が26.5％で最も多く、次いで「ほぼ収支が均衡した」が20.5％、「やや赤字だった」「大幅な赤字だった」が17.2％、「わからない」が15.9％となっています。





（４）経営上の課題 [複数回答]

**◆「職員の確保が難しい」が71.5％、次いで「事務作業量が多い」が45.7％**

・「職員の確保が難しい」が71.5％で最も多く、次いで「事務作業量が多い」が45.7％、「収益の確保が困難」が43.0％などとなっています。



（５）職員の充足状況

**◆「やや不足している」が54.3％、次いで「非常に不足している」が23.2％**

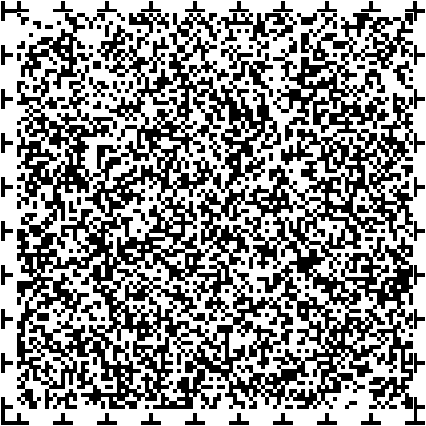
・「やや不足している」が54.3％で最も多く、次いで「非常に不足している」が23.2％、「十分である」が19.2％、「わからない」が2.0％などとなっています。



（６）職員が困っていること [複数回答]

**◆「収入が少ない」が44.4％、次いで「必要な事務作業が多い」が41.7％**

・「収入が少ない」が44.4％で最も多く、次いで「必要な事務作業が多い」が41.7％、「精神的にきつい」が33.8％などとなっています。



（７）サービス提供の課題 [複数回答]

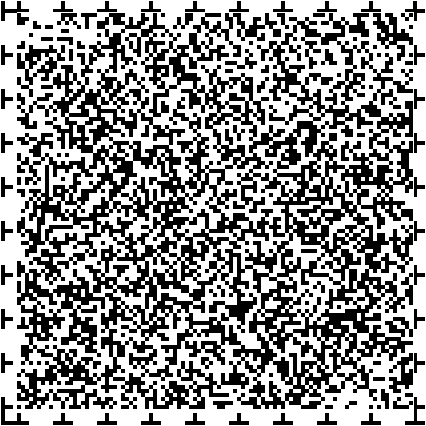
**◆「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が38.4％**

・「量的に、利用者の希望通り提供できていない」が38.4％で最も多く、次いで「困難事例への対応が難しい」が34.4％、「休日や夜間の対応が難しい」「変更やキャンセルが多い」が30.5％などとなっています。

（８）新規参入の予定 [複数回答]

**◆「放課後等デイサービス」が7.3％、次いで「就労継続支援（B型）」が6.0％**

・「放課後等デイサービス」が7.3％と最も多く、次いで「就労継続支援（B型）」が6.0％、「居宅介護」「共同生活援助（グループホーム）」「児童発達支援」が4.6％などとなっています。



（９）新規参入にあたっての課題 [複数回答]

**◆「福祉人材の確保」が64.5％、次いで「利益（採算）の見込み」が56.5％**

・「福祉人材の確保」が64.5％で最も多く、次いで「利益（採算）の見込み」が56.5％、「土地（賃貸借物件を含む）の確保」が33.9％などとなっています。

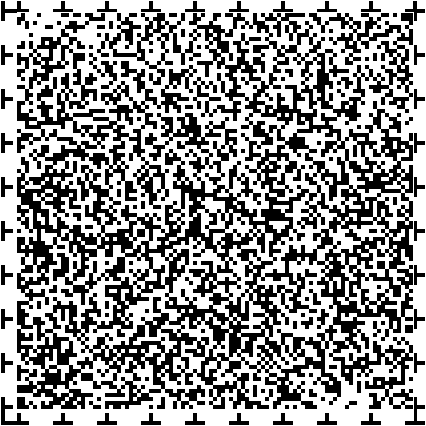
（10）障害者が暮らしやすい地域づくりのために力を入れるべきこと [複数回答]

**◆「関係機関の連携強化」が72.8％**

・「関係機関の連携強化」が72.8％で最も多く、次いで「相談支援事業者への助言・指導、人材育成」が50.3％、「地域住民への普及啓発」が37.7％などとなっています。

（11）新型コロナウイルス感染症の影響 [複数回答]

**◆「職員の勤務調整に困難が生じた」が58.3％**

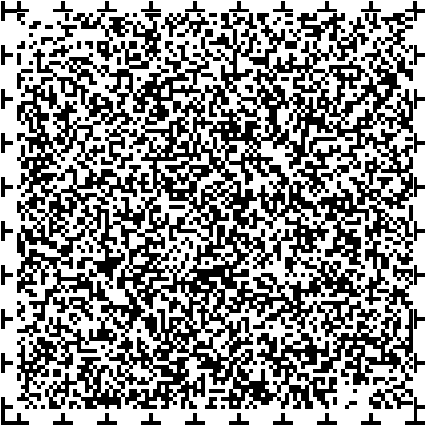
・「職員の勤務調整に困難が生じた」が58.3％で最も多く、次いで「通所控えにより給付費が減少した」が42.4％、「感染対策に必要な物資の調達に困難が生じた」が26.5％などとなっています。

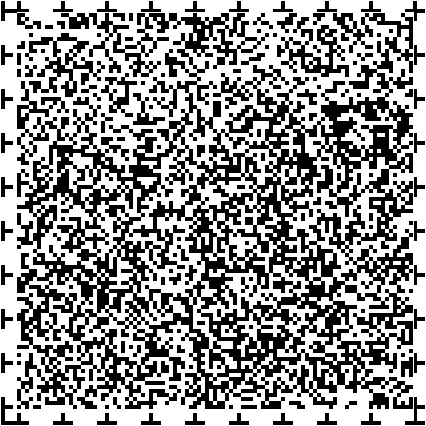
（12）障害者施策に期待すること [複数回答]

**◆「事務手続きの簡素化」が62.3％、次いで「福祉人材の確保のための方策」が57.6％、「地域生活基盤の充実のための方策」が31.1％**

・「事務手続きの簡素化」が62.3％で最も多く、次いで「福祉人材の確保のための方策」が57.6％、「地域生活基盤の充実のための方策」が31.1％などとなっています。







この印刷物は、業務委託により500部印刷製本しています。その経費として１部あたり440円（税別）かかっています。ただし、編集時の職員人件費等は含んでいません。

**新宿区障害者生活実態調査報告書　概要版**

印刷物作成番号　2022-25-2910

発行年月　令和５年３月

編集・発行　新宿区　福祉部　障害者福祉課

〒160-8484　新宿区歌舞伎町一丁目４番１号

電話　03（5273）4516

ファクス　03（3209）3441